



## ユビキタス機能を応用した高機能自動火災報知設備の開発に関する検討

無線通信を活用した自動火災報知設備が近日中に消防法が改正され登場してくる予定です。それについての検討委員会のまとめについて、ご紹介します。

### 1. 経緯

自動火災報知設備の情報伝達手段として、近年の無線情報通信の技術発展に伴う多様なニーズに対応するため、無線方式を採用した新たなシステム及び消防防災分野へのユビキタスネットワークの利活用の将来像を検討するため、平成17年6月に学識者、有識者等から構成する「ユビキタス機能を応用した高機能自動火災報知設備の開発に関する検討会」(委員長：石井弘允日本大学教授)が開催され、このたび、最終となる平成19年度の報告が取りまとめられました。

### 2. 報告書の概要

平成17年6月の本検討会立上げから3年目となる平成19年度は、一般の防火対象物に対して無線方式の自動火災報知設備を用いることについて検討することとし、電波干渉に係る検証実験及び設計確認手法に係る確認実験が行われました。また、消防防災分野への電子タグ等の応用などを主眼とした、消防関係者の意識調査が行われました。これらより、今後のユビキタス機能の活用方策について、検討が行われました。

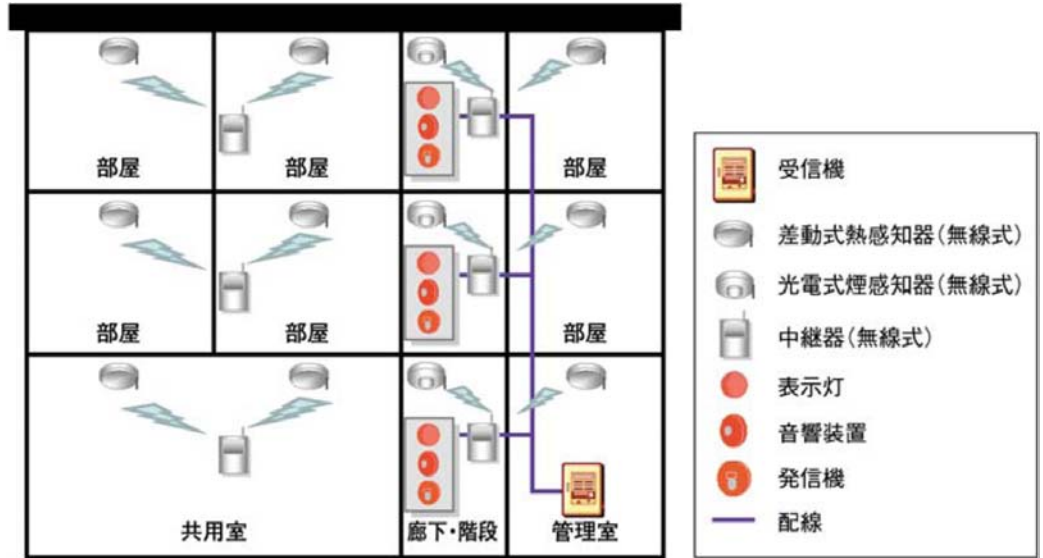
◆無線式自動火災報知設備のあり方自動火災報知設備が無線方式となることに伴い、配線があることにより担保されてきた火災信号等の送受信や導通状態確認などについて、これまでと同様に確保することが必要となります。その技術的な方策として、無線機器については、電波法令上の小電力セキュリティシステムに関する規格である「標準規格RCRSTD-30」に適合するものを用いることが必要とされています。また、安定した通信に必要な電界強度の確保や信頼性確保のため必要となるシステム状態監視(定期通信、電源監視、警報表示など)、火災信号の確実な送受信の考え方(火災信号の繰り返し発信、火災表示時間など)がまとめられています。

◆消防防災分野に対するユビキタスネットワーク利活用の将来像

ユビキタスネットワークに関して、消防防災分野において消防用設備等とはどのような利活用が考えられ、またどのような課題があるのかについてアンケート等を行うことにより意見を集め、調査等を行い将来像が検討されました。その結果を踏まえ、消防用設備等への活用が考えられるシーズ技術や、ユビキタスを活用したシステムのイメージがまとめられています。

### 3. 今後の予定

一般住宅用の住宅用防災報知設備の無線化については、本検討会における平成18年度までの検討内容に基づき、平成19年3月に基準整備が図られています。一般の防火対象物にも平成19年度の検討内容に基づき無線式の自動火災報知設備が設置できるよう措置する予定です。また、消防庁では、消防防災分野に対するユビキタスネットワークの利活用について、今後も検討を継続していく予定です。



ユビキタスネットワーク社会とは、「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」ネットワークにつながることで、様々なサービスが提供され、人々の生活をより豊かにする社会。「いつでも」とは、パソコンで作業を行う時だけでなく、日常生活活動の待ち時間や移動時間等あらゆる瞬間においてネットワークに接続できるということであり、「どこでも」とは、パソコンのある机の前だけでなく、屋外や電車・自動車等での移動中等あらゆる場所においてネットワークに接続できるということであり、「何でも、誰でも」とは、パソコン同士だけでなく、人と身近な端末や家電等の事物(モノ)やモノとモノ、あらゆる人とあらゆるモノが自在に接続できるということ

## 『危険物安全週間』 6月8日～14日

6月8日から14日は、『危険物安全週間』です。本年は、下記重点項目を掲げ実施されます。

### 重点実施項目

(1) 危険物施設における保安体制の整備促進

(ア) 危険物施設の事故防止対策の推進

立入検査の集中的実施、危険物事業所における自主保安体制の強化及び徹底した事故原因の究明を行い再発防止対策の構築を図る。

(イ) 危険物施設の効果的な日常点検等による安全対策の推進

危険物施設の事故の多くは管理不十分が原因となっており、また、腐食・劣化による漏えい事故の増加が懸念されていることから、消防法に基づく定期点検に加えて、効果的な日常点検を確実に実施するとともに、施設の設置環境や経過年数等に応じた維持管理を実施し、危険物施設の安全対策の推進を図る。

(ウ) セルフスタンドにおける安全対策の推進

セルフスタンドにおいて、静電気による火災、吹きこぼれ等の事故が発生していることから、顧客への周知徹底、固定給油設備等の維持管理の実施等により、安全対策の推進を図る。

(エ) 危険物事故防止アクションプランの推進

平成20年度危険物事故防止アクションプランの周知及び重点項目に沿った事故防止対策の徹底を図る。

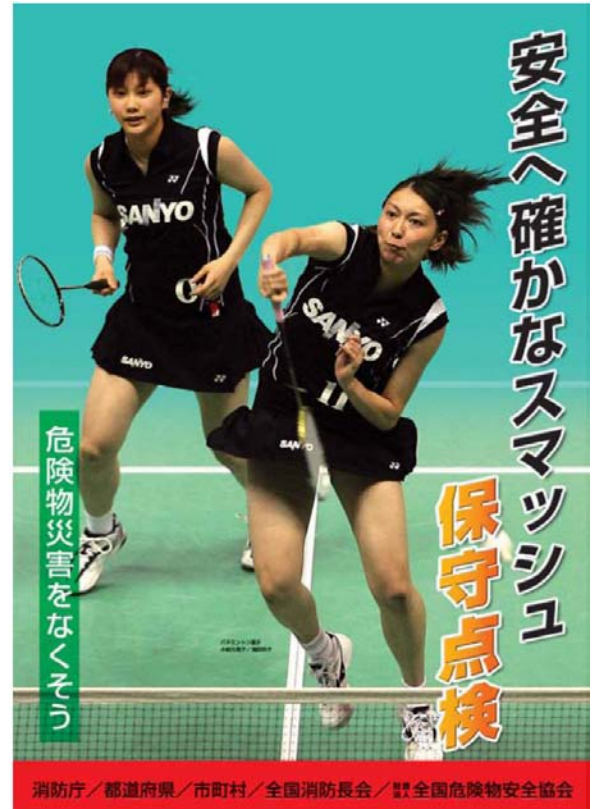
(2) 危険物に関する知識の啓発普及

(ア) 危険物安全週間の趣旨の徹底

(イ) 講演会、研修会等の開催

(ウ) 関係者が一体となった取組の推進

(3) 危険物保安功労者の表彰



## 体験型消火設備研修センター『実消館』での研修会について

平成20年5月16日(金)弊社主催で、各消防署のご担当の方に『実消館』での体験研修会を実施させていただきました。当日は、エアホームチャンバー、泡ヘッド、放水型スプリンクラーの放射実験を体験していただき、同時に消火設備のギャラリー、消火器工場のご見学もしていただき、非常にわかりやすく理解できたと好評でした。お得意様向けの体験研修会も秋に予定しておりますので、その折は是非ご参加くださいますようお願いいたします。



泡ヘッド



エアホームチャンバー



放水型スプリンクラー



消火器工場見学



消火設備ギャラリー見学



防災Tシャツ・防災タオルPR